

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所

森が育つと海が豊かになります

森が育つと海が豊かになることはご存じでしょうか。

森と海の間係を襟裳岬の例で紹介します。

かつて襟裳岬は広葉樹で覆われていたのですが、江戸時代に本州から人が移り住むようになり、薪などの燃料のため木がことごとく倒されてしまいました。

すると大雨のたびに、森の土がはぎ取られ、泥水になって海に流されるようになり、昆布やウニが取れなくなってしまったそうです。

そこで、漁師さんたちによる植樹運動や林野庁による緑化事業により、現在では森がよみがえっています。

森がよみがえるとともに、雨が降っても森の土が海に流れ出ることがなくなり、昆布やウニの漁獲量が年々上がっているそうです。

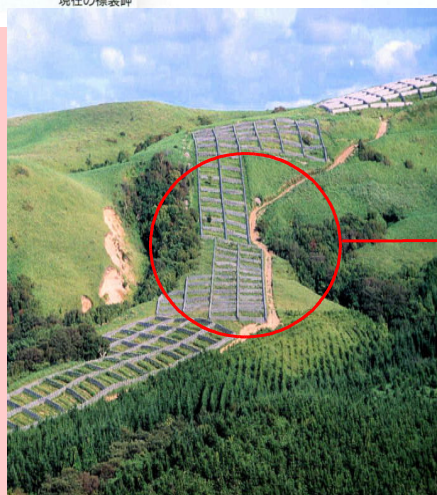
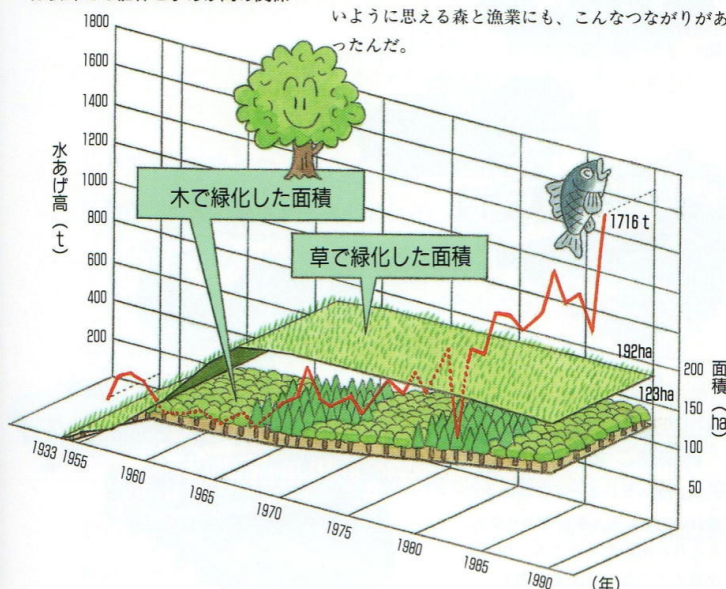
このように、森と海と人間のくらしには切っても切れない関係があります。上の写真のように、礼文でも木の無い箇所に積極的に木を植えて森林を造っています。

1953年の襟裳岬



現在の襟裳岬

・襟裳岬での植林と水あげ高の関係



約10年前に植付



現在の様子